

2018年度（平成30年度）入学試験筆記試験（小論文試験）

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

【文章省略】

下記の文章を示し、以下のように出典等の記載を付した。

〔出典：問題文①：野口裕二「ナラティブと感情」西田英一・山本顯治編『振舞いとしての法—知と臨床の法社会学』（法律文化社、2016年）136-142頁。問題文②：佐々木力『科学論入門』（岩波書店、1996年）164-173頁。出題の都合上、文章の一部を省略し、注及び小見出しを削除する等の変更を加えた。〕

設問1 問題文①を読み、臨床場面における「司法モデル」「医学モデル」「ナラティブ・モデル」の共通点・相違点を感情への対応という観点から簡潔にまとめなさい。  
(600字以上800字以内)

設問2 紛争状態にある対立する複数当事者を前にして、専門家としての調停人はどのような役割を果たすべきか。問題文①の「ナラティブ・モデル」の考え方と問題文②の「近代医学」と「医術」の違いや「看護術」における「コア・キュア・ケア」という考え方を前提にして考えるところを述べなさい。(600字以上800字以内)